

# カナダ・ノバスコシア州ハリファックス市の廃棄物資源管理 ～「脱」焼却を実現、「脱」埋立に向けて～

青山 貞一 aoyama@eritokyo.jp  
環境総合研究所所長、武蔵工業大学教授



## 【ノバスコシア州の概要】

カナダ最東端、北大西洋に面するノバスコシア州は、人口94万人。全部で7つの地区から成り立っている。ノバスコシア州には55の市町村があり、ハリファックス市は4つのまちが統合してできたノバスコシア州最大の町で人口は36万人である。主要産業としては北大西洋に面する最大規模の漁港を背景とした漁業がある。



## ハリファックス方式の特徴

**大前提としてのシュワードシップ** 金銭的負担をする。リスクを背負う。(デポジット) 作業を分担する。労苦を惜しまない。(奉仕の精神) 排出者としての責任を担う。責任を果たす(PPP原則)

**明確なビジョン・戦略** 排出抑制、排出規制、脱焼却、脱埋立、地方自治、住民参加・合意形成

**わかりやすい戦略** 市民・NPO・企業参加の計画立案、立地選定、事業実施、市民参加の分別(生ゴミ、容器、紙、プラスチック、有害物等) 分別ゴミの資源化(リユース、リペア、リサイクル)

**具体的でローテクを使った施策・活動** 生ゴミ堆肥化の導入(堆肥化工場、庭での堆肥化) デポジットの導入(乳製品用を除く全容器に適用) 収集拠点としての環境デポの設置、リサイクル工場の設定

ノバスコシア州では90年代はじめ最終処分場立地などをめぐり激しい行政と住民の対立があった。5年の歳月をかけ最終処分場の立地選定を市民参加で行なうなかで、シュワードシップにもとづく生ゴミの堆肥化、容器のデポジット制、紙、プラスチック、タイヤなどの再資源化を柱とした資源管理を生み出した。ノバスコシア州全体で90ヶ所の環境デポ(収集所)、大型2カ所を含む18ヶ所の生ゴミの堆肥化施設がある。現在、焼却炉はシドニー地区に特殊用途のものが1炉あるのみで、過去、膨大な数の処分場があったが、現在は5年の歳月をかけ市民参加で立地選定したもの以外はすでに終了したものの小規模なものがある。

## ハリファックス方式の効果

- (1) 「脱」焼却によるダイオキシン、重金属はじめ有害化学物質がもたらすさまざまなリスクの低減
- (2) 1000人規模の雇用の創出、NPO/NGO・地域企業の参加による地域経済への貢献
- (3) 連邦や州政府の補助は限定的。持続可能な経済システムの確立。資源物廃棄規制導入による施策効果。
- (4) シュワードシップの徹底による市民の自己責任、自治意識の向上

ハリファックス市が中心になって1995年に行なった廃棄物資源管理(ゴミゼロ提案)は、何ら難しいことではない。それはゴミとされる資源の有効利用を最大化し、同時にゴミの量を削減することに他ならない。最終処分場に行っているゴミを、排出段階で資源を分別、収集する。デポジット制度を導入し、徹底して容器の回収に努めるとともに、他の一般廃棄物についても、有機性廃棄物(生ゴミ)、資源化可能ゴミ、有害廃棄物に収集段階、処理段階でも徹底分別することにある。この戦略の目標は、ごみの減量化、家庭内有害廃棄物の適正処理、家庭での生ゴミの堆肥化とともに、教育や普及計画も含まれている。

ハリファックス市を中核としたノバスコシアのゴミゼロ戦略の中核は、生ゴミの「堆肥化」にある。これが戦略成功の鍵を握っている。グリーンカートコンテナと呼ばれる特別容器に堆肥化できる生ゴミを分別して集める。排出段階で分別されたゴミは、リサイクル施設、堆肥化施設、家庭内有害ゴミの処理施設に運ばれる。すべての廃棄物は、資源化できるもの、堆肥化できるもの、有害物が抽出されることになる。これら。容器のデポジット制度とあわせ、これらリユース、リサイクルによってゴミが資源の価値を生み、同時に各種の運営資金を生み出すだけ。さらに処理されることなく



最終処分場に埋め立てられるゴミがなくなることによって、有害浸出水や排ガス、悪臭、野鳥や昆虫などが集まってくるという様々な問題から解放される。

事業者(工場・事業所・商店・研究所等)も自治体が出資するリサイクル施設、堆肥化施設、分別施設を利用することができるが、独自に類似の施設を運営しても良い。施設の利用料金はごみの分別を促進させる。

